

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.55 2012.3.1.

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831
URL <http://kikusui-net.jp>



福まち通信



第63回さっぽろ雪まつり開催

震災復興の一助に！！北海道の力を！！

今年の雪まつりは、東日本大震災の復興を後押しする各種のイベントが行われました。東京電力福島第一原発事故の風評被害による観光客減少も懸念されましたが、主催者の発表によると約205万人が来場しました。

特に、西八丁目の雪のHTB広場では、福島県会津若松市の名城「会津鶴ヶ城」を雪像にしました。また、同県の特産品を販売する店舗がオープンしました。



また、西四丁目のSTV・よみうり広場は、「雪の水族館 海からの贈りもの」がテーマです。特に、海洋生物のクジラ・イルカ・アザラシ・セイウチ・海ガメが豊で青く美しい海を泳いでいる光景が表現されていました。その他には、インドの世界遺産「タージ・マハル」や人気漫画のドリーム9「トリコ×ワンピース」の雪像に大勢の見物客が集まりました。

第14回菊水地区雪中運動会開催



2月4日（土）午前10時、幌東小学校のグラウンドにおいて、菊水地区青少年育成委員会・菊水地区まちづくりネットワーク会議・PTA 4校連絡協議会・おやじの会・菊水地区民生委員児童協議会の共催により菊水地区雪中運動会が開催されました。寒い日にかかわらず、開会の10時前から多数の子どもたちが来場していました。来場者数は、353名（子ども213人、大人140人）でした。

開会式は、青少年育成委員会の本田会長の挨拶のあと、札幌市立幌東小学校の山谷校長から祝辞がありました。

進行役の札幌市立幌東中学校生徒会の皆さんの指導により準備体操を行い、雪中運動会の競技に備えていました。

第1競技「おきあがってGO」は、ピストルの合図で、すばやく立ち上がりスタートしてゴールで順位を決定します。観客から熱い声援が飛んでいました。



第2競技「ちびっこ集まれヨーイドン」は、幼児と親が並んで、スターターの「いちについて、よーいどん！！」の合図で親子一緒に走ります。子どもがボールを拾いゴールに立っている人のところまで行き、ボールを籠に入れるとペンダントを首に掛けてもらえます。



第3競技「ざぶざぶとりゲーム」は、ダンボールの座布団を円状に並べ座布団の前に立ち、音楽が鳴ると走り、音楽が止まった場所で座り、座布団の数を減らし勝者を決定します。

第4競技「アンパンマンと一緒に走ろう」は、スターターの「よーいどん！！」の合図で親子と一緒に走り、アンパンマンのキャラクターカードをひっくり返します。カードに書いてあるキャラクターのお面をかぶった人の所へ行き、一緒に手をつないでゴールします。



第5競技「ずばりあてまSHOW」は、笛の合図で予想した数の旗の所へ移動し、各自が予想した場所に立ち止まった所でサイコロを振ります。サイコロの目と予想が当たると景品がもらえます。子どもはサイコロを振るスタッフに、大きな声で自分の番号を叫んだりしていました。子供たちは広々とした雪の上で、雪中競技を大いに楽しんでいました。



おやじの会の皆さんは、力を合わせてイグルーを作りました。イグルーの前で記念撮影している親子が嬉しそうにしていました。ゲームの終了後は、女性調理スタッフの調理した豚汁を参加者全員に振舞い、子供たちは「美味しい」と豚汁を平らげました。大鍋に入った豚汁は直ぐになくなりました。



閉会式は、来年度の当番校である札幌市立東橋小学校 PTA 会長から歓迎の挨拶後、終了となりました。

白石区子育て支援者のつどい開催



2月20日（月）午後2時から白石区区民センター3階ホールにおいて、「白石区子育て支援のつどい」が開催されました。主催は、白石区保育・子育て支援センターです。

今回の講演のテーマは、「育つ者から育てる者へ～大切な命を育むために～」で、講師は助産院エ・ク・ボ院長高室典子氏です。講演要旨は、一つのいのちが誕生するには、難しい確率をかいくぐり、10カ月をかけて、小さな小さな細胞が、人間の進化してきたような歴史を再現し、そして人間になります。そうして

産まれた命が、今、いじめ、虐待、自殺、テロなどの心が凍りそうな、また人間がお互い信頼できなくなるような問題にさらされています。従来あった当たり前の常識が変化し、価値観が多様化しているのではないのでしょうか。環境汚染も地球規模の広がり、人間のいのち（健康）は、体や心の奥深く子孫にまで影響を及ぼそうとしています。従来あった当たり前の常識が変化し、価値観が多様化しています。多くの情報も心眼を開いて見つめなければ、本当に大切なものが見えなくなっているのではないのでしょうか。



いま、人間の基本である「いのち」の誕生をとおして、自分のありかたや命をみつめてみましょう。



1. 地域の中での助産婦としての仕事 ①現代のお産、子育ての現状②そこからみえてくるもの
2. 新しい「いのち」が生まれる神秘 ①新しい命の誕生による家族の変化
3. いのちって、あったかいね ①世の中に、無駄な「いのち」などひとつもない。
4. 私たち大人に問われているもの ①食生活②家庭こそのいのち教育の原点③みんなで子育てを④支援者の姿勢
5. 笑顔は地球を救う ①笑顔は、私たち人間に与えられた特権で、心を結ぶ共通語②心は体のまねをする。

札幌市青葉保育園節分の会開催

2月3日（金）午前10時から札幌市青葉保育園の園庭において、「節分の会」が行われました。



今年は、園内でインフルエンザの流行があり、急遽、園内のホールから園庭に会場を変更しました。

寒い中、約78人の園児が園庭に集合し、女性保育士の司会により2月生まれの4人の園児のお誕生会も合わせて行いました。当園の節分



の会に、3人の地域ボランティアのお兄さんが協力しました。



突然、園児の皆さんが整列している中に赤鬼や青鬼が現れ、園児は驚いて逃げ回りました。

園児たちは勇気を出して、赤鬼や青鬼に雪玉を投げつけると逃げ出しました。園児たちから大きな歓声が起こりました。4人の園児は、赤鬼や青鬼を追い掛けましたが、鬼たちは鬼ヶ島へ一目散に逃げ帰りました。園児の皆さん、よく頑張りましたね。

歩行者用信号機が設置されました



「スーパーアークス菊水店」前の三叉路は、車両用の信号機が設置されています。この信号機には歩行者用の信号機が一面のみ設置され、他の二面には設置されていませんでした。この三叉路は、札幌市立幌東小学校の通学路に指定され、登下校で児童が毎日利用しています。「スーパーアークス菊水店」が開業してから交通量が急激に増加し、「スーパーアークス菊水店」の駐車場の出入口も車両が多くなり、児童に対する重大事故が危惧される状況となりました。

上記の事由から、昨年8月に菊水南連合・菊水1条4丁目・菊水3条4丁目・菊水3条5丁目の各町内会及び札幌市立幌東小学校は、連名で北海道警察本部へ要望書を提出するとともに、地域住民は、署名運動して白石区役所へ署名簿を提出しました。

その結果、1月30日（月）に歩行者用信号設置工事が行われ、他の二面に設置されました。

姉妹の孤立死を考える

東日本大震災以降、地域の絆が必要であると強く叫ばれました。一方、姉妹の孤立死の問題を考えると、身近な同じマンションの住人でさえも、姉妹の存在を知らなかった現実がありました。

孤立死の原因は、①近隣住民や地域との人間関係が疎遠②適切な介護・医療を受けていない③行政の支援がない④非常時や緊急時に助けを求める人がいない等の理由があると思います。

札幌市は、再発防止策として①福祉サービスを利用していない知的障害者の生活実態調査を実施する。②電気・ガス事業者が生活困窮者への供給停止した時は、市は事前に情報提供を求める。③区役所と障害者相談支援事業所との連携強化の対策を公表しました。

（参考）北星学園大学社会福祉学部准教授・木下武徳氏の先進地の取組み事例を紹介します。

大阪府では、地域の相談を専門機関につなぐ『コミュニティソーシャルワーカー（CSW）』が各地域に配置されている。希薄な近隣との関係に不安を感じた聴覚障害者の悩みをCSWが聞き、住民の手話勉強会が開かれたこともある。支援には、見守りのように地域住民にしかできないもの、生活保護など行政にしかできないものがある。CSWは、問題を町内会や行政、専門機関につないでコーディネートする。（参考文献 木下武徳著「姉妹孤立死 繰り返さないために」読売新聞 2012.2.5）

今後の孤立死対策の成否は、行政・地域・障害者相談支援のきめ細かな連携強化が鍵となると思いますので、進展を注目していきたいと思えます。

編集後記

私は、都合により2カ月程休ませていただきます。私の代わりに後任は現在人選中です。宜しくお願致します。今年は、豪雪により道内のあちこちで、空家建物の倒壊や雪下ろし作業による人身事故が頻繁にありました。最近、日差しも強くなり、雪解けも少しずつ進み春が待ち遠しい毎日です。

品川編集員